



めでたい新年を飾る恒例企画、「新春スペシャル対談」も4回目となりました！
今回は、初の女性ゲストとして、ラジオや講演等でファンも多い、あの「林田 スマ」さんを
お迎えしました！（パネラー：当協議会会長・出水精治、事務局局長・渡辺雅信、ホスト・広報部）

朝倉介護保険事業者協議会 会報
Vol. 42 平成24年12月31日発行
(通巻第42号)

出水会長 林田さんには、以前にも当協議会で「介護現場におけるコミュニケーション」というテーマでご講演を頂きました。その節は大変ありがとうございました。再度お会いできてまして光栄でございます。

林田氏 朝倉といえば、筑前町はこの前、町長にもお世話になって、大刀洗飛行場に関連した「平和のメッセージコンテスト」で審査委員長をさせて頂いたんですよ。それで筑前町役場にずっと行かせて頂きました。平和の町にしたいと町長も頑張っていたら、全国から1300通を超える素敵ものが集まりましたよ。随分時間をかけて読ませて頂きました。朝倉って本当によかとこだな～と思いましたね。私も嘉穂町の大隈なので、山を超えたら小石原でしたから非常に親しみを感じます（笑）

出水会長 私が施設長を務めさせて頂いている法人も実は東峰村で、特別養護老人ホーム、デイサービス等、そのような高齢者福祉事業をやらせて頂いています。村の施設については管理委託を受けてやっていっているところなんです、できるだけ村の方を採用しているんですよ。

林田氏 まあ！雇用がそこで生まれるというのは、どちらにも幸せですよ。利用者の方にとっても、馴染みの言葉が出てくるでしょうね。

出水会長 53名の職員で、20名が村内の方、そして障害者の方も2名ほど来て頂いています。何かとお力を少しでもお借りして、それに純粋な方が多いですし、一生懸命さとか、逆に学ばせていただくことも多いです。ただ現在福祉人材が少なくなってきているようで、中途採用で40代50代以降の方が現状で結構来られています。

林田氏 働く場としてはとっても必要とされているのに、長く続けるためには、その方々が精神的にも経済的にも潤う状況を作らないとですね。

出水会長 それと産休とか、若いお母様たちが戻ってこれるシステムを作って、本当の意味で支援していくことが重要な時代ですね。

林田氏 今、女性たちも働く場所を求めていますから、ワークシェアリングと言いますが、出来るところ、出来る時間でお互いが分け合って、やっていけるといいですよ。子どもが巣立った人は「土日暇よ」「子どもおらんけんよか



よ」って、土日は少し高齢の方がいらっしゃったり、少し分けてみんなが働ける社会を作っていけないといけなんでしょうね。

出水会長 若いお母さんたちは、お屋までの人、2時までの人、4時までの人、うちではそういう条件の下、選択式でやらせて頂いています。おじいちゃん、おばあちゃんがおられるご家庭ではいいのですが、なかなか最近では…。

林田氏 みんな核家族ですもんね～。昔は、ある程度うちの中で完結していたものが、今すべて外部化してますね。病気になったら病院、高齢者になったら施設に、そこで面倒を見て頂かないと。うちに家族がいなかったら、それが一番安心ですもんね。

渡辺 今、国の方も力を入れているのが「在宅医療」ですね。看取りまで在宅でということなんです、ただ、やはり家族の中では限度もあるかとは思ってますよね。

林田氏 実は、私は祖父母も両親もほとんど在宅で看取ったんです。それはとても幸せな形だったんですけども、祖父母の場合は両親もいるし、私たち孫もいるし、家族がいっぱいいる中で亡くなって、本当に母が脈を取ったくらい、お医者さんを呼ばなくて良いような状況で。また両親もみんなの中で枯れていこうにして亡くなっていったん

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ <http://www.asakura.in>

朝倉介護

検索

特別記事

新春スペシャル対談 with 林田スマさん



です。今、こういう形は私たちは望めないですよ。私たち世代は、親の面倒は見たけれど、看ては貰えない。みんなが言う私たちの合い言葉は「もう子どもには迷惑をかけられない」と。そうなった時に一番良い老後の形というのは、居場所があって、そしてそこに必ず家族が会いに来てくれる。この距離感がいい。朝から晩まで親子でいるとそんな人じゃなかったでしょ、お母さんそんなはずじゃなかったでしょ、こればかりで。距離が近すぎて煮詰まるんですよ。距離を置いて、「明日またね」って言えると、一晩寝るとまた会いたくなるというか、この関係が地域の施設への多様なニーズとしてこれから求められるんじゃないかと思えますね。

出水会長 最近ば逆にお年寄りと接してない若者が多いですよ。

林田氏 そうですね。昔は一緒に暮らしていたので、大変なこといっぱいあるけど、お母さんに怒られた時、おばあちゃんのところに行ったら、それを和らげてくれたり、やっぱり心の拠り所だったわけですよ。ところが今は親を通しての関係しかないんで、高齢者に対する思いっていうのがもう全然変わってきてるんですよ。私は、昔のように多世代同居に戻させてというのは無理だとは思いますが、もっと高齢者と関わる、例えば地域の公民館でおじいちゃんおばあちゃん役の人が、子どもたちの居場所を作ってみるとか、また違ってくるんじゃないかなと思いますね。

出水会長 最もおじいちゃんおばあちゃん子だったから、三世代一緒に赤ちゃんとか面倒を見て、両親は働いてと。そんなことで、福祉の世界に何も違和感がなかったですね。

林田氏 そうでしょ！昔、うちの息子がお医者さんになりたいって言ったんですが、それは「おじいちゃんおばあちゃんに可愛がってもらおうけん、大きくなったらお返しはしちゃうっちゃん」って。本当にそんな思いだったんですよ。そういう意味では、小さいときに高齢者とふれあういうことをしなきゃいけないんじゃないかって。自然にお年寄りが少しずつ弱っていく、出来なくなっていく状況を見ることは、子どもにとっては凄く命を知ることになるので、もの凄く勉強の場なんですよ。家庭の中が、今は核家族だし、悪いとは言いませんけど、本当に世代の繋がりがりというものが薄れてしまったので、お盆も正月も帰らなくて良いよ、旅行の方が良いよみたいになると、「故郷」は凄く遠くなってしまふ…。やっぱり高齢者

という人たちがこの社会を作ってくれたんだってことを、もっとみんなで考えないと、ただ年をとっただけじゃなくて、日本の経済をしっかりと持ち上げてきた人たちが今高齢者になっているならば、出来るところで、出来ることをやりましょうというのが大事なんじゃないですかね。

私、父が75、6歳で弱ったときに肺ガンがあって、お医者さんが「この肺ガンは心臓の横で小さいし、脳梗塞がちよっとあるから、手術もお薬も何もしないで家でゆっくり過ごさせなさい」と言われたので、何もしなかったんですね。家でコソコソと孫たちと一緒に過ごしながら、段々弱ってきて、お風呂に入るのが難しくなったときに、息子が「今まで入れてもらうとうけん、俺がいれちゃー」「目ばつむっときーよ、石鹸が目に入るけん」と頭を洗ってあげて。5年生が75歳の面倒を見たっていうのは、今までいっぱいしてもらった、だから手の中にはやっぱり「おじいちゃんにしてもらうとうけん、ずーっと俺がしちゃう」って気持ちがあって、亡くなる1週間前までお風呂に入れたんですよ。それが私にとっては、一緒に住んどいてよかったなと。やっぱり、年寄りとふれあうことで学んだことはたくさんあったんじゃないかなと思えましたね。

広報部 そういう高齢者・弱者の方との強い接点を持たれた方は、やはり支え合い精神と言いますか、協力し合おうという気持ちを持たれるのでしょうか。先ほど出水会長のお話にも出ました、お勤めの時間帯を選択して提供されている環境にも理解が深まると思います。

出水会長 子どもさんが風邪ひいた、何したってなったときには、交代しませんか？って言い合える。“お互い様”ですもんね。

林田氏 それがいいですね。そして「ありがとう、助かったけん」と言われれば、「またよかよ〜」って。共に生きていくお互い様ってことが、いろんなところで出来ていけることが凄く大事ですよ。

浦辺 やっぱり実際に在宅で介護をやった人と、そういうのを抜きにして仕事として来られた方っていうのは違いますね。



特別記事

新春スペシャル対談 with 林田スマさん

林田氏 それは本当によく聞きますね。だから、本当はお仕事の中で気付いたり、学んでいくことが一番良いんでしょうけど。やっぱり安心感ですよ。この町で安心して老いていく、この町で最後までここにいるんだと思ってくれる地域を作っていくためには、もしもの時には安心して行ける場所があることが一番なんですよね。

渡辺 ただ、そういう施設が少ないんですよ。今、認知症の方でも280万人で、在宅が半分以上なんです。ということは、どれだけのご家族がお世話しているかということですよ。

林田氏 苦しみですよ。老々介護でどっちが先に疲れるやろうかっていう状況もありますからね。

渡辺 そういう方でも独居の方が多くいますよね。ご家族が遠いんです。ですから、一番最悪なのは孤独死とかそういう形になるんでしょうけど、それを防ぐためにはどうすればいいんだ、見守り体制をどうするんだとか、いろんな課題があるんですよ。

林田氏 地域が小さな家族になっていかないと、隣とどう繋がっているかという部分ですよ。やっぱり困ったときは何か言いんしゃいよってという関係がないと、家のなかで独りなんて難しいことですよ。

そういえば、このあいだ、三浦朱門さんが日経新聞か何かを書いてらしたんですけど、高齢者の方はもうちょっと肩の力を抜いて、笑われながら年老いていったらいいよって。別にシャンとしとかんで、笑われていいじゃないって。「あら～、出来んことになった～、あつはつ～」って言いながらね、出来ていたことが出来なくなった、それをワッハッハと言いながら老いていくのも良いみたいなのを見て、私、新聞を切り抜いたんですけどね。あんまり、深刻に考えないで、みんな老いていく。でもこんなに長く生きられるようになった。100年前は四十何歳まで、私が生まれた頃は平均寿命がいくつでしたか。そう考えたら、こんなに長く生きられる社会があったことは、凄く幸せなことで、おじいさん・おばあさんになれるということは、本当はとっても幸せな社会。そのおじいさん・おばあさんが幸せになれる社会をみんなで作っていく。私もやっぱりシワシワの梅干しオババになるまで生き



ていたいなって思うし、そう思えることが夢のある社会だって。ならば、みんなが長生きしたくなる社会を私たちがやっぱり作らないかんちゃなかなって思うんですよ。

渡辺 ご高齢の方でもですね、可愛い方はいつも笑ってあります(笑)

出水会長 オシャレですしね(笑)

林田氏 やっぱり、今日より明日! いくつになっても今日より明日、ちょこっとでも良くなりたと思って生きてるんですよ。年をとったら段々悪くなるのは分かっているけど、それをどう持ち上げようかと。そんなときに何が要るかという、やっぱり友達だったり頼りになる人だったり、家族だったり。人の財産というのはお金だけではなくて、人という財産をどれだけ持っているかということじゃないかと思えますね。

渡辺 私の場合は、どうやって人が喜ぶかを考えるようにしてますね。施設でも素敵な光景がありまして職員の気付かないところを利用者が気が付いて、その人をお世話してくれる。もう嬉しくなって心が温まりますね。

林田氏 してもらえばっかりじゃなくて、出来るところは自分もやりますという、そういう場なんです。お役に立てることが楽しい。私も、なんでこの年で働いているの?と言われますが、今の仕事が楽しいからなんです。やっぱり元気な間は働いて、何か役に立てる、みんなが何かの役に立てる。高齢者も生きていく間は役に立つ高齢者になりたい!と思ってあると思えますね。

出水会長 そして林田先生も“可愛い高齢者に”!
(一同爆笑)

林田氏 笑ったり泣いたり怒ったり、本当に自分の思いをきちんと表現できる風にならないと。今まで培ってこられた知恵と重ねられた経験を若い人にどんどんもつと伝えて頂く、そういう役割があるんだってこと、だから諦めないで生きていきたいなって、私たちを含めて思いますね!



事業報告 I

第3回スタッフセミナー 「倫理・プライバシー」



実際に起きた出来事から蛭子伝説などの神話に至るまで、人間の倫理観に直に訴えかけるケースを題材に、SOL（生命の尊厳）や、QOLとは何なのか、改めて見つめ直す必要性が説かれたほか、絶対に正しい倫理観はないとしながらも、介護サービス提供の現場においては不意に陥りやすいという利用者支配への注意が喚起された。

平成24年9月21日（金）、ピーポート甘木（中ホール）にて、今年度の第3回スタッフセミナーが開催された。今回は講師に久留米大学文学部社会福祉学科の片岡靖子氏を迎え、「倫理・プライバシー」をテーマに、人の“生と死”を軸として様々な事例を交えながら貴重な講演が行われた。身近なものでは過度な延命治療の是非、医師による安楽死事件といった



SOL (Sanctity of Life) = 生命の尊厳

～ 生命（特に人の命）は無条件に尊いとし、以下の3原則に従う考え方～

- | |
|---|
| 1. 人為的に人の死を導いてはならない（正当防衛を除き殺人は許されない）。 |
| 2. 第三者が、ある人の命の値うちを問うことはできない。 |
| 3. すべての人命は平等に扱われなければならない（人の命の価値を比較してはならない）。 |

QOL (Quality of Life) = 生活(生命)の質

生活の質（内容）	医療現場で患者の生活機能ができるだけ保たれ、人間らしい生活を続けられること。
生命の質	人の生命の価値を「人格」という相対的なものとして、評価・比較可能とする。

事業報告 I

第4回スタッフセミナー

「口腔からの感染予防 ～要介護者のQOLの維持のために～」



平成24年11月28日（水）、ピーポート甘木（中ホール）にて、本年度の第4回スタッフセミナーが開催された。今回は「口腔からの感染予防～要介護者のQOLの維持のために～」をテーマとし、朝倉歯科医師会 今井歯科医院院長の今井富実生氏を講師に迎えて、口腔を経路とする有害な細菌の侵入やケア不足による環境悪化の危険性等について、その予防法も交えて解説された。

介護現場における口腔経由の感染予防のためには、放置すれば誤嚥性肺炎の引き金にもなりうる菌垢（プラーク）コントロールをはじめとする要介護者への口腔ケアだけでなく、介護者からの飛沫感染等を考慮し、自身のケア姿勢の確認や咬傷予防にも努めることが求められるほか、義歯や麻痺のある方には、より入念なケアが必要とされることなどが説明された。



その違和感・・・口腔ケアの問題かも？

全身の問題	口の問題	ノドの問題
肺炎と診断されたことがある	食事に時間がかかる	食事中やお茶を飲むときに、ムセることがある
（原因不明の）微熱を繰り返す	口が濡れている	ノドにゴロゴロと痰が絡んだ感じがある
最近、やせてきた	口の中に食べ物が残る	ノドに食べ物が残る感じがある
なんとなく元気がない、ボーとしている	食べ物をこぼすことがある	食事中や食後に弱い咳がでる
「起立歩行困難」や「失禁」が多い	食べ物、飲み物が飲みにくいと感じる	声がかすれてきた（ガラガラ声・かすれ声）
	言葉が出にくい。ろれつが回らない	夜、咳で眠れなかったり目覚めることがある
	義歯を入れていない。義歯が不適合	

（社）全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会

事業報告Ⅱ 部会活動報告

福祉用具部会

太陽シルバーサービス株式会社 川津 季美子



私たち福祉用具部会は、年に4回の定例会を開催しています。内容としましては、拡大会議報告や情報交換等をメインに行っています。10月16日には、訪問リハビリ部会からのお声かけにより合同部会を開催致しました。それぞれの部会に対するの質疑応答や情報交換を行い、幅広く意見交換が行え、大変有意義な合同部会となりました。

また、褥瘡予防研究会におきましても、介護保険事業者協議会の皆様にもご協力いただき、定例会の開催及び講師の先生を迎えての講習会を開催しています。本年度は「車いすの適合について」「褥瘡予防を目指すトランスファーとポジショニングについて」というテーマのもと、二度講習会を実施致しました。予想を超える多数の皆様に参加いただき、関心をもっていただいていることを研究会メンバー一同大変嬉しく思っています。

今後も、皆様方と協力しながら、地域の利用者の方々に満足して頂ける質の高いサービスが提供出来るよう取り組んでいきたいと思っておりますので今後とも宜しくお願い致します。

訪問リハビリ部会

甘木中央病院 古賀 大亮

訪問リハビリ部会は、現在4事業所にて活動しています。活動内容としては、年5回の定例会に加え、年1回の他部会との合同部会を企画し実施しております。定例会では、各事業所より事例提供してもらい病例検討会を行っています。日頃関わる利用者様の中で、どうすればその方らしい暮らしに結びつけることができるか？安全性は確保できているか？など、問題点や解決策を議論することで質の高いサービスの提供と個人のスキルアップを目標に活動しています。

また年1回の合同部会では、他部会との情報の共有・知識の向上等を目的に開催しています。

在宅生活を送られている中で、不安を抱えながら生活してある方やご家族が、まだまだいらっしやと思います。当協議会の在宅リハ分野として、地域の方のニーズに応えられる、必要とされるように今後も努めていきたいと思っております。



Hobby Box

～ お菓子づくり ～

訪問看護ステーションけんせい 鶴田 真寿美 さん



趣味…といわれて自慢できるものはないのですが、小学生のころからお菓子を作ることが好きで、暇を見つけてはケーキやクッキー、シュークリームなどを作っていました。結婚してからは、4人の子供の子育てと仕事で、作ることが激減していましたが、4年ほど前から下の娘2人とバレンタインデーのチョコレート菓子やクリスマスのケーキをよく作るようになりました。

今回は、おばあちゃんの誕生会をするのに、簡単なチーズケーキを2種類作ってみました。作り方は、クックパッドやクリームチーズの箱に書いてあるものを参照し、材料を全部量って小分けしておけば、作り始めて10分足らずで生地ができ、オープンへ。レアチーズも同様で、実際の作る時間は10分程度であとは冷蔵庫へ。おばあちゃんは孫の手作りケーキとあって、大喜びでした。

お菓子を作ると、うまくいってもいなくても成果が形で残り、それを食べる子供たちの笑顔で癒され、私にとってストレス発散になってるようです。材料を量っておけば、あとはオープンと型さえあればあつという間にできて、お腹も心も満たされますので、皆さんもぜひ作ってみませんか？

My Way

ゆめホームはきの 小川 真弓 さん

今回の紹介者は「朝倉ケアプランサービスの 古賀 千代美」さんです。

デイサービス「ゆめホームはき」の小川真弓さんを紹介させていただきます。

同施設が平成16年に発足して以来、管理者兼責任者として、ずっと頑張っておられています。

明るくて、頑張り屋さんで少々そっかしいところもありますが、利用者様やご家族の方からの信頼は絶大で、その接遇も大変素晴らしいと思います。

時には辛いこともあると思いますが、顔には出さず他のスタッフの方と同じようにテキパキと働かれます。まさに、ゆめホームには“なくてはならない方”です。

これからも健康に気をつけ、その持ち前のファイトで頑張ってください。



次回は 小川 真弓 さんからのご紹介で

介護老人保健施設ラ・パス 山口 由紀子 さんです！

介護スタッフリレーコラム

「生きるを支える」

ラ・バス訪問介護事業所 岩瀬 眞由美

今回、東日本大震災介護ボランティアの一員として、宮城県仙台市にある定員150名の特別養護老人ホームへ行って参りました。

海から3km離れた所にある施設は“まさか”津波に襲われるとは！と絶句。押し寄せてくる波に職員の見事な決断で協力し合い、1階の利用者様50名を力のある限り、階上へと上げたのです。職員の手は、外へパカパカと流れていく。防風林は根こそぎ倒れ、その迫ってくる光景をよそ目に、毎日膝上まで濡れながら通勤され、2日家に帰らず2日施設に泊るという生活を続けたそうです。2週間電気のない中、暖を取るため、利用者様と抱き合いシートにくるまって眠る生活をしていただいたとの事。7台の救急車が来て、利用者様を分散させようという救援隊の指導にも移す事なく自分の施設でお世話をし続けた。（施設長が『他の施設に預けたら命がなくなる』という強い思いがあったと聞きました。）

利用者様を守る＝命を支えるという究極を味わったのではないのでしょうか。私達が今高齢者の方をお世話する仕事をしているのに、これ程までの密着度を感じているだろうか？ 相手との心が一つとなり、高齢者『おめえがいねば、おれは死（す）んでしまう。』職員『おれがいねば、このとしよりは死（す）んでしまう。』・・・人と人、魂と魂の結びつきは、今この業界で働く人だけにしか体験出来ない仕事をさせて頂いているとつくづく感じています。魂と魂のやり取りの中でなければ、本当のケアはあり得ない。相手様も“ありがたい”という心から沸き上がる感情も出ない。こういう事を交わす事によって、人として“生まれてきて良かった”“この世の最後に満足”という思いを持って頂けると確信します。こういうケアが東北の地でなされている。私達も負けじと尚一層頑張りたいと思っています。

～皆が幸せを感じられるように～

徒然日記

デイサービスもよい Y・I

～ 私の老後 ～

私には、人生のモットーがあります。それは明るく楽しく、いきいきと生きていこうです。

17年前になります。今の介護職に就く為に、40代の私は主婦をしながら学生生活を半年間送りしました。これは、家族の協力があつたからこそ実現した事です。

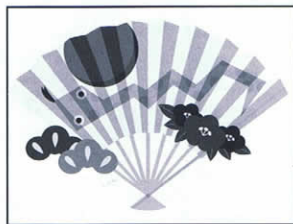
とても充実した毎日、試験勉強もしましたし、体力的にもそこそこ自信がりましたが、今現在どうでしょう。60歳に手が届くこの頃は、定年退職65歳まで体力が不安です、なんといっても一番気になるのは頭がついていくかという事です。

利用者様の中には、最高齢97歳の方がいらっしゃ

いますが、膝が少し悪いだけで、頭はしっかりされています。その方に見習って、いつまでも現役で仕事が出来ようまた、定年退職後は、生花の趣味を続け、ボランティアの施設巡りをしたいのでその為には、自分らしく、明るく、楽しく、いきいきと生きていこうと思います。



編集後記



明けましておめでとうございます。昨年は会員の皆様の御協力により、充実した情報をお届けする事が出来ました。

記事を作成する中で、各事業所の皆様とお話をさせて頂きましたが、長い間に培われたノウハウや御苦労されたお話等、熱く語って頂き、どのお話も高齢者の皆様の幸せを願う思いが、強く伝わって参りました。

日本を司る国政は、目標の定まらないまま、今後の福祉にも大きな影響を与えようとしています。そのような状況の中でも私たちが福祉に携わる者として更に絆を深め目標を見失う事なく頑張っていきたいと思っております。

今年もよろしくお願致します。（山口）

事務局

朝倉介護保険事業者協議会 事務局
〒838-0814 福岡県朝倉郡筑前町高田2311
特定非営利活動法人 武光福祉会
TEL (0946)22-9743 FAX (0946)22-5465

編集 / 発行所

朝倉介護保険事業者協議会 広報部
〒838-0228 福岡県朝倉郡筑前町二242-17
(有) 咲美 介護用品ハーテック
TEL (092)926-8109 FAX (092)926-8109
印刷 / 井上総合印刷株式会社